この三條がいふやう、大ひさにはこと〴〵も申さじ、あが姫君大貳の北方ならずば、たうごくの受領の北方になし奉らん、三條らも、ずいぶむにさかえて歸り申ば、つかうまつらんと、ひたひに手をあて、念じ入てをり、

〔宇治拾遺物語十〕今はむかし、圓融院の御とき、內裏燒にければ、後院になんおはしましける、殿上の臺盤に人々あまた著て物くひけるに、藏人さだかた、大ばんにひたひをあて、ねぶりいりて、いびきをするなめりとおもふに、やゝ、ゑばしになれば、あやしと思ふ程に、臺盤にひたひをあて、のどをくつ〴〵とくつめくやうにならせば、〇下略

〔本朝世紀〕康治二年正月十二日庚子、今日法皇臨幸鳥羽炎魔天堂、被修心經會事、以大僧都寬信爲御導師、請僧十五口、事未畢之間、右少將源成雅朝臣與前山城守藤原頼輔有鬪亂事、〇中略左衞門少尉平惟繁以郎等令捕頼輔、成雅得力以刀刃傷頼輔額、流血染衣冠、既以髦頭如大童、成雅騎馬起脫、

〔增鏡九草枕〕あづまへ行て、ゑか〴〵とをしへしまゝにいひて見れば、入道殿〇北條時頼の御消息なりけり、あなかま〴〵とて、永く愁なきやうにはからひつ、佛神などのあらはれ給へるかとて、みなぬかをつきてよろこびけり、かやうの事、すべて數ゑらずありしほどに、國々も心づかひをのみしけり、最明寺の入道とぞいひける、

〔太平記二十一〕天下時勢粧事

朝廷ノ政、武家ノ計ニ任テ有シカバ、三家ノ台輔モ、奉行頭人ノ前ニ媚ヲ成シ、五門ノ曲阜モ執事侍所ノ邊ニ賄フ、サレバ納言宰相ナンド、路次ニ行合タルヲ見テモ、聲ヲ學ビ指ヲ差テ、輕慢シケル間、公家ノ人々イツシカ、云モ習ハヌ坂東聲ヲツクヒ、著モナレヌ折烏帽子ニ額ヲ顯シテ、武家ノ人ニ紛ントシケレ共、立振舞ヘル體サスガニナマメイテ、額付ノ跡以外ニサガリタレバ、公家ニモ不似、武家ニモ不似、只都鄙ニ步ヲ失シ人ノ如シ、